



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：マッカ神殿列車と中国

(20日付アラブ・ニュース紙)

20日付アラブ・ニュース紙は、「中国、マッカ神殿列車で新たな尊敬獲得」という記事を掲載している。

1. サウジのハッジ巡礼者受け入れプロジェクトの中で最も特記すべき改善をもたらしたのは、今年聖地間で数万人の人々を移送した鉄道である。最新式のハイテクを備えた列車が乗客を乗せたり下ろしたりする光景は、中国の製品と技術面の快挙に対する新たな尊敬の念を生み出した。関係者は、「昨年着工された総経費数十億リヤルのプロジェクトは、2012年の完工時に現レベルの3倍の移送能力を備えることになる」と述べた。しかし、この新鉄道システムは、既にミナ周辺の交通渋滞を軽減し、多くの巡礼者の聖地での移動を楽にした。
2. 中国とサウジの二国間関係は、過去10年間に中国が経済成長の原動力として従来以上に大量の原油を求めてきたことから発展している。アブドゥラー国王は、「東方」政策の実施によりサウジの貿易関係再編成を促した。東方政策は消費財のみならず大型機器や建設機械の輸入増進をもたらした。中国の方も、その輸出品が他国製品に比べ劣っていると従来認識を変えるべく品質を向上させてきた。ある大学教員は、「我々はショッピング・モールに出かけて独国や日本の製品を買い求め、中国製品を軽蔑してきたが、西欧諸国に旅行した際、ショッピング・モールが中国製品で溢れているのを見て、中国に対し真剣に向き合い始めた」と述べた。

参考データ：サウジアラビアと中国との二国間関係（2010年）

2010-01-12

中国の楊外相がサウジを訪問（14日まで）。13日にサウード外相と共同記者会見を開いた。

2010-02-15

米国のクリントン国務長官がサウジを訪問し、リヤード郊外でアブドゥラー国王と会談した。日経新聞は、サウジは中国にとって最大の原油輸入相手国であり、イラン制裁強化に慎重な中国への影響力行使に期待する思惑もあるとみられると報じた。

2010-03-12

サウジ公式筋は、対イラン国連制裁を中国に呑ませるためにサウジが中国に対して影響力を行使する用意があると報じられたことを否定した。こうしたことは米国のゲイツ国防長官のサウジ滞在中に話し合われなかったという。米国が呼びかけているイラン革命防衛隊への制裁をサウジが支持しているか否かは不明。

2010-03-15

サウジのリヤード紙がサウード外相のインタビュー記事を掲載。その中で同外相は、中国はイランの核開発をやめさせる努力において大国として自国がすべきことを熟知していると述べた。またサウジが、P5+1 グループの取組みを支持しているとし、イランがその努力に協力することへの希望を表明した。先週の米 WP 紙によると、同外相は今月初め秘かに訪中し、この問題について協議したという。

2010-04-25

サウジ地場企業であるダンマーム 7 石油化学会社は、中国上海 Huayi とアクリル酸工場の技術移転と建設の契約を締結した。

2010-10-10

アブドゥラー国王は、サウジ訪問中の中国の孟建柱・公安相（国務委員）と会談。同相はナーイフ第 2 副首相兼内相とも会談。両国内務省間の治安訓練分野における協力等の文書（document of intentions）に署名。